第62回

北海道高等学校登山選手権大会

兼第67回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会

主　催　北海道高等学校体育連盟・北海道教育委員会・北海道山岳連盟
後　援　上富良野町・東川町・美瑛町
　　上富良野町教育委員会・東川町教育委員会・美瑛町教育委員会
主　管　北海道高等学校体育連盟登山専門部・北海道高等学校体育連盟旭川支部
当番校　北海道旭川東高等学校
協力校　北海道旭川北高等学校・北海道旭川西高等学校・北海道旭川工業高等学校
　　北海道富良野緑峰高等学校

2023年6月20日(火)・21日(水)・22日(木)・23日(金)

旭岳、上ホロカメットク山・十勝岳

ご　挨　拶

北海道高等学校体育連盟会長 駒　井　博　和
（北海道札幌白石高等学校長）

令和５年度全国高等学校総合体育大会北海道予選会の開会に当たりご挨拶申し上げます。

本大会への出場を果たされた選手の皆さん、そして日頃から熱心に指導に当たられてきた指導者及び学校関係者の皆様にお祝いを申し上げます。

新型コロナウィルス感染症は本年５月に法令上の位置付けが変更となるなど、私たちの生活にはコロナ禍前の日常が徐々に戻りつつあります。運動部活動においても、これまでは活動内容の工夫や、時間、場所等の配慮など、感染症対策を徹底する中での活動が求められてきました。しかし、引き続き必要な対策はあるものの、コロナ禍前の存分な活動が戻ってきたのではないでしょうか。また、昨年度、一昨年度の全道大会においては、観客の対応について制限をお願いしてきたところですが、今大会は皆さんの活動を支えてくれた保護者をはじめ関係者の皆さんを４年ぶりに会場に迎え入れて開催することができました。スポーツが本来もつ「する」「見る」「支える」「知る」の多様な関わり方が、本大会に戻ってきたことを大変嬉しく思っています。

今年の夏の全国インターハイは、「轟かせ魂の鼓動 北の大地へ 大空へ」をスローガンに、「翔びたて若き翼 北海道総体 2023」として、総合開会式と 28 競技が北海道内の 19 市町を舞台に、そのほか山形県西川町、栃木県宇都宮市、和歌山県和歌山市で開催されます。北海道総体の切符をかけて本日から始まる大会においては、これまで真摯に競技に打ち込んできた皆さんの思い、皆さんの活動を支えてくれた家族や関係者の思い、安全・安心な大会の運営にご尽力いただいている関係者の思いなど、本大会に関わるすべての人の思いを皆さんの一挙手一投足に込め、36 年ぶりに本道で開催される全国大会に出場できるよう最後の一瞬まで諦めることなく、精一杯のプレーで熱戦を繰り広げてくれることを期待しています。

結びとなりますが、本大会の開催に当たり、様々なご支援をいただきました市町村及び教育委員会、北海道スポーツ協会、関係競技連盟、そして当番校をお引き受けいただきました高校の校長先生をはじめ先生方、補助生徒の皆さんに心から感謝を申し上げご挨拶といたします。

歓迎のことば

当番校　北海道旭川東高等学校
校長　　郡　司　慶　次

第62回北海道高等学校登山選手権大会兼第67回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会を目指し、全道各支部の予選会を勝ち上がり、本大会出場を果たした各校選手の皆さん、おめでとうございます。また、この度本大会を旭川支部が当番校として開催するにあたり、皆様を心より歓迎いたします。

新型コロナウイルス感染症との共存により、３年を超える月日を過ごしてきました。５月８日以降５類感染症となり、私たちの生活は新たなフェーズを迎えました。一方で換気、手指衛生、咳エチケット等の感染対策をとりながら生活していくことが求められています。私たちはこの３年間の生活をとおして失ったものがあるかもしれません。一方で自然災害も含めて予測不可能な時代を生きていることを改めて実感するとともに、それらにどのように対応していくべきか、多くの教訓も得てきました。皆さんはそのさなかにあっても、学習活動はもちろん部活動においてもモチベーションを保ちながら継続して取り組んでこられたことに改めて敬意を表します。本大会においてその日々の努力と成果を遺憾なく発揮し、折しも今年８月７日から５日間にわたり、旭川・東川・上川・美瑛・上富良野を舞台に繰り広げられる、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）出場に向けて、相互に協力し合いながら登山競技に取り組まれることを期待しています。

本大会は、大雪国立公園内の旭岳・十勝岳という、いずれも標高2,000mを超える、登山をする者にとって憧憬の場所で開催されます。起伏に富み、雄々しい自然の光景を目にすることができます。その反面大自然が投げかける、予測が難しい諸課題に直面することでしょう。その点で知力と体力を使ってチームで解決を目指す高校山岳部の登山競技を開催する上で、最適な山々であると思います。また、本会場はインターハイ会場の一部ともなっており、全国レベルの知識と技能を駆使してチームとして乗り越える舞台だとも言えます。全国の高みを目指すことはもちろん、現チームとして最善を尽くして、悔いの残ることのない大会となるよう心から願っております。

結びに、本大会の準備・運営にご尽力くださった登山専門部の皆様、日頃から指導いただいている各校顧問の皆様、また、立派な舞台を提供し受け入れていただいた東川町の関係機関の皆様に心より感謝申し上げます。さらに、参加される皆さんが本大会をとおして一段と成長されることを祈念し、歓迎のことばといたします。

大会役員

名誉大会長	小野倫夫		
大会長	駒井博和		
副大会長	町田英謙	大浦　充	壽浅章洋
	相沢克明	高倉利一郎	稲津　誠
	菅野秀樹		
顧問	斉藤　繁	菊地　伸	角和浩幸
	倉本博史	荒川裕生	
参与	山城宏一	今村隆之	増澤由人
	髙野智史	髙野端洋	
大会委員長	郡司慶次		
大会副委員長	今野博友		
大会委員	土居昌彦	宮田五輪夫	太刀川建一
	小師良仁	桂　譲	髙野純平
	飯田一三	小池圭太	内海健一
	畑野和宏	中條　恵	大井　聡
	松永直樹	三戸　渉	山納秀俊
	藤本和夫	中新井　尊	水野秀人
	玉森　一	木村宣幸	鈴木容佳子
	石丸高志	細野　護	
安全対策委員長	小野倫夫		
安全対策副委員長	小池圭太	飯田一三	
安全対策委員	中條　恵	高橋健一	

大 会 実 行 委 員

審査委員長	小池圭太（旭川工業）	
審査委員	【男子】	【女子】
	木村宣幸（北広島）	相田敬史（旭川北）
	中新井　尊（北見北斗）	畑野和宏（遠軽）
	大井　聡（札幌工業）	山納秀俊（小樽潮陵）
	塩谷和樹（市立函館）	大塚　徹（札幌南）
	岡崎和之（旭川北）	松永直樹（函館ラサ）
	藤原浩二（有朋苫小牧）	鈴木容佳子（江別）
隊長	蓑口一哲（帯広柏葉）	細野　護（旭川北）
副隊長	【男子】	【女子】
	三戸　渉（室蘭栄）	玉森　一（釧路湖陵）
	山下宗紀（旭川商業）	西　千秋（高体連OB）
コースパイロット	小池圭太（旭川工業）	~~竹中正喜（釧路商業）~~
サポート	【男子】	【女子】
	田中拓己（札幌北）	山下文孝（高体連OB）
	板垣教一（江別）	今井一穂（利尻）
	石丸高志（旭川西）	丹野裕之（旭川西）
	瓶田幸宏（富良野緑峰）	高井勝巳（高体連OB）
	牛久保琢哉（旭川永嶺）	業天眞由美（富良野緑峰）
	及川研一郎（旭川北）	日野秀一（旭川工業）
チェックポイント	内海健一（旭川北）	漆山裕章（旭川西）
	桐尾義之（高体連OB）	佐々木亮介（札幌北）
設営	藤本和夫（岩見沢東）	水野秀人（帯広大谷）
クリーンサポート	城座研一（富良野緑峰）	白戸愁真（旭川工業）
通信	高橋健一（旭川東）	中條　恵（旭川東）
ペーパーテスト	相田敬史（旭川北）	
天気図	木村宣幸（北広島）	
現地本部	飯田一三（旭川東）	
大会補助	旭川東高等学校山岳部員	

大　会　事　務　局

総　務	飯田　一三	中條　恵	高橋　健一	
競　技	高橋　健一	中條　恵	工藤　大輔	千葉　雄次
輸送宿泊	飯田　一三	中條　恵	高橋　健一	近畿日本ﾂｰﾘｽﾄ
救　護	飯田　一三	工藤　大輔	千葉　雄次	
記　録	高橋　健一	森実三保子	梁川　耕	
会　計	川村　希	佐藤　淳		

開会式

1．開式通告
2．開会宣言
3．優勝杯返還・レプリカ授与
4．大会長挨拶
5．大会委員長挨拶
6．審査委員長挨拶
7．選手宣誓
8．閉式通告
＊当番校より連絡

閉会式

1．開式通告
2．成績発表
3．優勝杯･賞状授与
4．審査委員長講評
5．大会委員長挨拶
6．閉式宣言
7．閉式通告
＊当番校より連絡

大会の審査要領

1．ペーパーテスト（登山についての基礎知識）　１０点（４人の平均点）
2．行動中テスト　５点
　（地点確認ポイントによる読図…２点）
　（隊長からの読図・自然等に関する質問…３点）
3．審査の配点

①体力	３０点	②歩行	２０点
③装備	１０点	④設営・撤収	５点
⑤炊事	５点	⑥気象	５点
⑦計画・記録	５点	⑧マナー	５点

研究課題　「十勝岳連峰の自然」

大会日程

１日目　２０日(火)
　１１：００　受付開始　　１２：３０まで
　１２：００　専門委員会・安全対策委員会
　１３：００　開会式
　１３：３０　監督会議（天気図審査と同時進行で開催）
　　天気図審査（録音したものを使用）１４：１０まで
　１４：３０　ペーパーテスト・審査委員会（役員会）
　１７：００　夕食
　２０：００　就寝

２日目　２１日(水)　※男子・女子とも全装行動　姿見の池まではチーム行動
　３：３０　起床　朝食・昼食受け取り
　　（風呂道具は各チームでまとめて、指定袋に入れてバスに積み込むこと）
　　（全装行動しないチームは、メインザックもバスに積み込むこと）
　４：３０　アートホテル旭川出発
　　（顧問は各自東川町Ｂ＆Ｇ海洋センター駐車場まで移動してください）
　５：３０　東川町旭岳青少年野営場横広場（旭岳野営場の上にある広い駐車場）着
　６：０５　登山開始
　８：１５　姿見の池
　１０：４５　旭岳
　１２：４５　姿見駅
　１４：１５　旭岳温泉登山口　バス乗車
　１４：４５　幕営地
　１５：１５　幕営審査
　１６：１５　炊事審査
　１７：００　安全対策会議（全顧問も含みます）
　２０：００　就寝

荒天対策
姿見駅往復

３日目　２２日(木)　※男子・女子とも全装行動
　３：３０　起床　朝食・昼食受け渡し
　４：４０　テント撤収審査
　　（サブザック行動のチームは設営隊の指示でメインザックを預ける）
　　（風呂道具は各チームでまとめて、指定袋に入れてバスに積み込むこと）
　５：００　幕営地出発
　　（顧問・役員もバスに乗車してください）
　６：３０　凌雲閣(十勝岳温泉登山口）着
　６：５０　登山開始
　９：３０　上ホロカメットク山
　１１：３０　十勝岳　昼食
　１３：３０　十勝岳避難小屋
　１４：３０　吹上温泉（白銀荘）　着　　入浴
　１６：００　バス出発
　１７：００　東川町民運動公園　着　　テント設営
　１７：４０　交流会
　１９：１０　終了
　２１：００　就寝

荒天対策
上富良野岳往復

４日目　２３日(金)
　６：００　起床　朝食
　８：００　審査委員会
　９：００　テント撤収
　９：３０　閉会式
　１０：００　解散

コース概況１　　旭岳

スタート地点は東川町旭岳青少年野営場横広場（駐車場）である。この広場は、冬季はクロスカントリースキーコースの駐車場として使われる。スタートしたら、舗装された道を進み、広い車道を右折し、旭岳ロープウェイ方向に歩道を歩く。この区間は車道に出ないように注意する。旭岳ビジターセンターの駐車場横より木道に入る。ここからは登山道となる。

100mほど歩くとすぐ分岐になるので、右折して天女ヶ原を目指そう。登山道は所々木道があり、近年整備されつつある。しばらく進むと第一天女ヶ原に着く。ここは小規模な湿原で、夏にはワタスゲやナガバノモウセンゴケなどを見ることができる。さらにアカエゾマツの森を進むと再び湿原が始まる。第二天女ヶ原である。湿原を過ぎると登山道は傾斜のある登りに変わっていく。

ここから徐々に高度を上げていく。植生は針葉樹からダケカンバの林に変わり、登山道脇にはシラタマノキなどの低木が混ざってくる。さらに高度を上げるとハイマツも多くなり、森林限界へと近づく。登山道右手の沢は盤の沢と呼ばれ、小さな岩壁を伴った斜面が続く。傾斜が徐々に緩やかになると分岐も近い。標高が上がるにつれてミヤマリンドウ、アカモノなどの高山植物も見ることができる。さらに進むとあたりは高山帯の雰囲気になり、旭岳ロープウェイ姿見駅と旭岳山頂へ向かう道との分岐に出る。分岐を右へ進み、姿見の池を目指す。道の途中にはチングルマやエゾコザクラ、キバナシャクナゲなどを見ることができるだろう。そして、右手にはオプタテシケ山から富良野岳まで連なる十勝岳連峰を、その左にはトムラウシ山も見ることができる。

小高い丘まで登ると「愛の鐘」のある姿見展望台となり、姿見の池が目の前に現れる。風のないときは池に映る旭岳の姿を見ることができるだろう。丘の横には旭岳石室がある。旭岳石室は避難小屋であり、緊急時以外の宿泊は禁止されている。

ここから先は瓦礫の斜面に一変し、植物がほとんどなくなる。踏み跡はほぼ明瞭だが、天気の悪いときは進む方向に気をつけよう。斜面をひたすら登る変化の無い道が続くが、振り返れば白い噴煙と姿見の池付近の火口湖群がきれいに見える。高度を上げれば、トムラウシ山の背後に日高山脈も見えてくる。

尾根上を登り続けてきたコースには、頂上の手前で岩塊が現れる。道はその岩塊をトラバースするように右傾斜に移る。ニセ金庫岩を確認しながら、急角度に左に曲がると爆裂火口の上に出る。そして、金庫岩を左手に見ながら最後の斜面を登れば旭岳（2,290.9m）の山頂である。

山頂に出ると今まで見ることのできなかった新しい眺望が広がる。黒岳や北鎮岳も見ることができる。遠くに雌阿寒岳や雄阿寒岳、そして斜里岳、羅臼岳まで見渡すことができるだろう。

旭岳石室までは来た道を下っていく。頂上直下の急斜面はザレ場で非常に滑りやすいので注意しよう。この先は、過去に誤ってニセ金庫岩を目印に南斜面を下って遭難した「SOS 遭難事故」が起きた場所でもある。ニセ金庫岩から右に折れた後は爆裂火口の縁を忠実にたどって下る。見通しがよい時は迷うことはないが、視界不良の時は地図とコンパスで進行方向をしっかりと確認することが必要だ。

旭岳石室からは登りのルートとは少し異なるので注意する。「愛の鐘」のある姿見展望台からは、右手に旭岳を見ながら夫婦池を目指して歩いて行く。夫婦池からもいくつか分岐があるが、地図で確認しながら旭岳ロープウェイ姿見駅に向かう。ロープウェイ駅を右手に見て進むと分岐に出るので、旭岳ロープウェイ駅の駐車場を目指して下っていく。

コース概況２　　上ホロカメットク山～十勝岳

北海道の山の特徴を一言で述べるならば、緯度の高さにともなう森林限界の低さと言うことになろう。北アルプスの2,500mに対して、大雪山系は約1,700m、知床連山は700～900mとはるかに厳しい。「北海道の山は標高＋1,000m」と言われるゆえんである。

しかし、このことは逆に言えば短い行程で高山帯に達することができるということでもある。高山植物が咲き乱れるお花畑、うっそうとした針葉樹林、燃えるような紅葉も日帰り圏内で楽しめる。色濃く豊かに残る自然とともに、北海道の山ならではの大きな魅力を味わってもらいたい。

大会３日目の舞台は十勝岳連峰である。主峰、十勝岳は遠くから見ても連峰の真ん中に三角のピラミッドのように見え、私見ではあるが、チョモランマ（エベレスト）もこんなふうに見えるのだろうか、と感じさせられる。現在、噴火レベル１の活火山であるが、有史以来何度も爆発し、大正15年（1926年）の爆発に伴う泥流災害は、地元旭川出身の三浦綾子が描いた『泥流地帯』の題材となった。近年では1988年に小規模な噴火を起こし、その後も火山性微動や地殻変動が観測されている。

出発は標高1,270m、十勝岳温泉登山口。ここには道内最高所の温泉施設がある。トイレが完備されている広い駐車場の右手のやや急な舗装道路からスタートする。ナナカマドやハンノキなどの灌木が混じるハイマツの中の広く平坦な遊歩道を進むと、正面に化物岩、その奥に八ッ手岩が見えてくる。

しばらく進むと三段山分岐（崖尾根コース）が左手にある。この崖尾根コースは落石事故のため、10年ほど閉鎖されていたが、2020年に復活している。分岐を過ぎてしばらくすると左手に自動観測の機械が見え、その奥に夫婦岩が見える。ハイマツが尽きた先で右手の涸れた沢、ヌッカクシ富良野川に下り、これを渡る。

対岸の斜面に取り付き、いったん下流方向へ折り返すように斜めに登り尾根を南側に回り込んで稜線に向かう。この尾根はD尾根と呼ばれている。斜面に取り付く際は意外と正規の登山道を踏み外すことがあるので注意しよう。尾根に出ると視界がひらけ、富良野岳から三峰山の稜線が一望できる。岩がごろごろした沢地形を渡ると富良野岳との分岐、上ホロ分岐である。

分岐を左上に歩いてしばらく笹地を行き、浅い沢地形を歩くと木段が迫ってくる。通称「三百階段」の急登だ。本日最初の試練となる。三百階段かどうか数えて登ると、もしかして気が紛れるかもしれない。登り詰めるとD尾根の上部である。砂礫と背の低いハイマツの尾根で、イワブクロ、エゾイソツツジ、エゾノツガザクラなどの花を楽しむことができるだろう。眼下に爆裂火口である安政火口、西に富良野岳の勇姿を見ながらの登山となる。左手の八ツ手岩を過ぎ、右に曲がって最後の急登を登ると主稜線に出る。ここは強風が吹き荒れることが多く、先へ進むことができるかどうか、適切な天候判断をしなければならない場所だ。ここから右へは三峰山、富良野岳へのルートとなるが、左へ行くと、ほんの30秒ほどで上富良野岳へ到着する。

ここからいったん分岐へ戻ってからイワヒゲ、ミネズオウ、メアカンキンバイなどの背の低いお花畑の斜面を下り、コルから50mほど登り返すと上ホロカメットク山(1,920m)山頂である。

メアカンキンバイ、ミヤマキンバイはよく見ると違いがわかる。時間があれば、ぜひじっくり

観察してもらえると花々も喜んでくれるはずだ。

上ホロカメットク山（通称上ホロ）は夏冬通して登られており、頂上直下には中央壁と呼ばれる絶壁が続き、八ツ手岩や化物岩とともに冬期登攀のコースになっている。上ホロカメットク山の語源については諸説ある。『上富良野町百年史』所載のアイヌ語表記では、ペナクシ・ホル・カ・メトッ・ヌブリ「十勝川・空知川本流の川上にある・後戻り川の・峰（十勝岳連峰）の端（深山）の・山」と説明されている。ちなみに十勝岳の山名は、トカプチ（十勝川）の水源であることに由来する。

ここからいったんコルに戻り、上ホロカメットク山を迂回するルートを歩いて上ホロカメットク山避難小屋に到着する。避難小屋は２階建てで、水場は今通ったルート上の雪解け水を利用する。夏はもちろん、特に冬の悪天候の際には重要な小屋である。また、トイレも常設されている。老朽化が進んでいたため、昨年建て直された。

避難小屋から１分ほど歩いて主稜線に入り、十勝岳を目指す。西側が切れ落ち、東側には緩い稜線が続く。東山麓の森は原生林で、その緑の濃さを目に焼き付けてほしい。ハイマツが所々稜線に迫ってくるほか、メアカンキンバイが咲くぐらいで、植物は少ない。崖側は崩れやすいので、視界がないときは、安易に近づかないように。

白茶けた火山灰地が露出し火山らしい稜線になってくると標高 1,870mの大砲岩分岐。大砲っぽい岩と考えて歩くと何となくそんな感じがするが、どうであろうか。ここから三段山への道が分かれるが、途中で崩壊し、現在は通行止めとなっており、杭とロープで仕切られている。分岐から十勝岳までは約１時間。背後には歩いてきた稜線が波うって続き、富良野岳の緑色の山肌が際立つ。通称馬の背と呼ばれるコブ（1,921m）を越えると登山道は火山礫で歩きにくくなる。ジグザグの登山道はメインザック行動では最もきつい登りとなろう。

たどり着いた十勝岳(2,077m)にはイワツバメが飛び交い、山頂から先にも美瑛岳への褐色の稜線が続いている。さらにその先にはトムラウシ山が望まれる。富良野盆地も一望でき、丘陵の奥にある芦別岳の鋭い稜線が目を引く。また、南方には日高山脈も遠望できる。

十勝岳から望岳台への下りは、肩から急斜面となり足場が悪いので注意しよう。踏み跡がいくつもあり、浮き石も多いので、落石に注意して歩いてほしい。急斜面を下るとグラウンド火口とスリバチ火口の間の砂礫の稜線を進む。

風向きによっては現在も活動している６２－Ⅱ火口や大正火口などからの火山ガスや噴煙が届くので注意が必要だ。1926 年の泥流はグラウンド火口で起きた水蒸気爆発が原因であった。いったん緩んだ登山道も 1,730mからまた急な下りとなる。ザレ場の下りなのでスリップや転倒に注意しよう。

尾根を離れ、涸れ沢を渡り、右に曲がると標高 1,330.2mの十勝岳避難小屋である。中にはヘルメットや毛布などの防災品が備えられており、活火山であることを再認識させられる。

小屋から少し下ると雲ノ平分岐となり、右に行くとポンピ沢を経て、美瑛岳に至るルートとなる。

さらに下り、泥流分岐を左に進む。前半は岩とハイマツのコンビネーション、エゾイソツツジやシラタマノキなどのお花畑、九条武子の歌碑など見るものは盛りだくさんである。富良野川を渡ると次第に針葉樹の林の中に入り、吹上温泉観測局の小屋を過ぎると広場に出る。終着地の白銀荘は目の前である。

大会参加校数一覧

支部名	全道大会						支部大会			
	参加校数			参加者数			参加校数	参加者数		
	男	女	計	男	女	計	合計	男	女	計
札幌	3	4	7	12	16	28	7	70	36	106
室蘭	1	1	2	4	4	8	2	22	4	26
小樽	1	0	1	4	0	4				
南空知	1	0	1	4	0	4				
旭川	3	3	6	12	12	24	5	65	19	84
北見	1	0	1	4	0	4	2	29	9	38
十勝	2	2	4	8	8	16	3	29	17	46
釧根	1	1	2	4	4	8	2	14	7	21
函館	1	0	1	4	0	4	3	17	4	21
計	14	11	25	56	44	100	24	246	96	342

先輩の踏み跡

全国大会優秀校

回	期　日	会　場	当番高校	優勝校（男）	優勝校（女）
1	1962.7.10～7.12	大雪山系	旭川東	芦　別	旭川東
2	1963.6.29～7. 1	大雪山系	上　川	札幌南　苫小牧東	芦　別
3	1964.7. 2～7. 4	ニセコ連峰	倶知安	旭川東　小樽千秋	旭川東
4	1965.7. 2～7. 4	富良野岳・十勝岳	富良野	増　毛　遠　軽	旭川東
5	1966.6.24～6.26	十勝岳・美瑛岳　美瑛富士	美　瑛	旭川東　増　毛	旭川東
6	1967.6.22～6.24	樽前山・風不死岳　恵庭岳	苫小牧東	旭川東　北見柏陽	旭川東
7	1968.7. 4～7. 5	ウペペサンケ	帯広三条	旭川東　芦　別	旭川東
8	1969.7. 3～7. 5	芦別岳・富良野西岳	芦　別	芦　別　帯広柏葉	芦　別
9	1970.7. 2～7. 4	横津岳・駒ヶ岳	遺愛女子　函館西	標　茶　帯広農業	遺愛女子
10	1971.7. 1～7. 3	大雪山系	旭川商業	芦別工業　旭川東	芽　室
11	1972.6.29～7. 1	知床山系	北見柏陽	旭川東　北見北斗	標茶農業
12	1973.6.28～6.30	十勝連峰	旭川東	深川西　函館有斗	旭川東
13	1974.7. 4～7. 6	天狗岳・余市岳	北海道工業	函館有斗　増　毛	芽　室
14	1975.6.26～6.28	羅臼岳・羅臼湖	標茶農業	標茶農業　増　毛	標茶農業
15	1976.6.23～6.25	夕張岳（日陰の沢）	美唄工業	美唄工業　小樽工業	標茶農業
16	1977.6.22～6.24	天塩岳	士　別	旭川東　北見北斗	標茶農業
17	1978.6.28～6.30	大千軒岳	函館有斗 函館白百合 函館ラ・サール	標茶農業　小樽工業	函館白百合
18	1979.6.28～6.30	室蘭岳・カムイヌプリ	室蘭工業	八　雲　旭川東	函館白百合
19	1980.6.26～6.28	ニセコ連峰	小樽工業	北見北斗	北見北斗
20	1981.6.25～6.27	空沼岳・札幌岳	札幌慈恵	富良野工業　北見北斗	函館白百合
21	1982.6.23～6.25	夕張岳	夕張工業	檜山北	旭川商業
22	1983.6.23～6.25	暑寒別岳・雨竜沼	砂川南	富良野工業　八　雲	北見北斗
23	1984.6.21～6.23	富良野岳・芦別岳	富良野工業	帯広柏葉	北見北斗
24	1985.6.20～6.22	斜里岳・羅臼岳	網走南ヶ丘	東　川　網走南ヶ丘	網走南ヶ丘
25	1986.6.26～6.28	雄阿寒岳・雌阿寒岳　阿寒富士	標　茶	北見北斗	標　茶
26	1987.6.17～6.20	羊蹄山・アンヌプリ　チセヌプリ・目国内岳	札幌新陽	小樽工業　北見北斗	旭川東栄
27	1988.6.23～6.25	ウペペサンケ山・ニペソツ山	帯広柏葉	小樽工業	旭川東栄
28	1989.6.22～6.24	駒ヶ岳・狩場山	函館中部 檜山北 遺愛女子	富良野工業　小樽工業	旭川東栄
29	1990.6.21～6.23	幌尻岳・トッタベツ岳	苫小牧東　静　内	小樽工業	旭川東栄
30	1991.6.20～6.22	羊蹄山・目国内岳・雷電山	倶知安	小樽工業　札幌稲西	江　別
31	1992.6.18～6.20	富良野岳・芦別岳	富良野	小樽工業	江　別
32	1993.6.23～6.25	夕張岳	夕張緑ヶ丘実業	旭川東　富良野工業	旭川東
33	1994.6.23～6.25	硫黄山・羅臼岳	北見北斗	旭川東	旭川東
34	1995.6.21～6.23	余市岳・無意根山	札幌稲西	旭川東　富良野工業	札幌南
35	1996.6.27～6.29	沼ノ原・トムラウシ山	帯広農業	札幌南	江　別
36	1997.6.19～6.21	恵山・海向山　白水岳～遊楽部岳	函館東　檜山北　函館ラ・サール	札幌南　札幌工業	北見北斗
37	1998.6.24～6.26	アポイ岳・イドンナップ岳	静　内	旭川東	北見北斗
38	1999.6.17～6.19	十勝連峰	富良野緑峰	札幌南　旭川東	北見北斗
39	2000.6.21～6.23	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	札幌南	北見北斗
40	2001.6.20～6.22	羊蹄山・ニセコ山系	小樽潮陵	札幌南　札幌工業	旭川東
41	2002.6.26～6.28	美唄山・樺戸山地	美唄工業	札幌工業	北見北斗
42	2003.6.25～6.27	知床硫黄山・羅臼岳	北見北斗	北見北斗　札幌南	札幌南
43	2004.6.23～6.25	十勝幌尻岳・伏美岳　ピパイロ岳	帯広農業	江　別	北見北斗
44	2005.6.22～6.24	無意根山・羊蹄山	札幌南	札幌南　江　別	八　雲
45	2006.6.21～6.23	白水岳・狩場山	函館ラ・サール	札幌南	八　雲
46	2007.6.20～6.22	ペンケヌーシ岳　チロロ岳	静　内	札幌南　北見北斗	北見北斗
47	2008.6.25～6.27	美瑛岳・旭岳	旭川東	旭川東	北見北斗
48	2009.6.24～6.26	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	旭川東　札幌北	旭川東
49	2010.6.23～6.25	神威岳・烏帽子岳　札幌岳・空沼岳	札幌稲西	札幌北	旭川東
50	2011.6.21～6.24	岩内岳～目国内岳　羊蹄山	小樽桜陽	札幌北	旭川東
51	2012.6.26～6.29	ピンネシリ　南暑寒岳～暑寒別岳	岩見沢東	札幌北	北星学園女子
52	2013.6.25～6.28	斜里岳　羅臼岳	遠軽（協力校：北見北斗）	北見北斗	旭川東
53	2014.6.24～6.27	ウペペサンケ山・ニペソツ山	帯広柏葉	帯広柏葉	帯広柏葉
54	2015.6.23～6.26	風不死岳　樽前山　羊蹄山	札幌西	旭川東	旭川東
55	2016.6.21～6.24	長万部岳　狩場山	遺愛女子	旭川東	旭川東
56	2017.6.20～6.23	ｶﾑｲﾇﾌﾟﾘ～室蘭岳　来馬岳～オロフレ山	室蘭栄	釧路湖陵	旭川東
57	2018.6.26～6.29	上ホロカメットク山～十勝岳　オプタテシケ山	旭川北	旭川東	釧路湖陵
58	2019.6.25～6.28	雄阿寒岳　雌阿寒岳	釧路北陽	帯広柏葉	釧路湖陵
59	中　止	（札幌岳、岩内岳・目国内岳・白樺山）	（北広島）		
60	2021.6.22～6.25	上ホロカメットク山～十勝岳　北鎮岳～旭岳	旭川北	旭川東	旭川北
61	2022.6.21～6.24	旭岳、黒岳～北鎮岳～中岳	旭川工業	旭川東	旭川東

全道高校体育大会参加における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

北海道高等学校体育連盟
令和５年度全道高校体育大会当番校

北海道高等学校体育連盟及び令和４年度全道高校体育大会当番校は、大会参加申込書等を通じて取得される個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下の通り対応します。

１　参加申込書に記載された個人情報の取り扱い

（１）大会プログラムに掲載されます。
（２）競技場内でアナウンス等により紹介されることがあります。
（３）競技場内外の掲示板等に掲載されることがあります。

２　競技結果（記録）等の取り扱い

（１）当番校が認めた報道機関等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
（２）大会プログラム掲載の個人情報とともに、当番校が作成する大会報告書（以下報告書という）に掲載されます。
（３）新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

３　肖像権に関する取り扱い

（１）当番校が認めた報道機関が撮影した写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
（２）当番校が認めた報道機関が撮影した映像が中継または録画放映及びインターネットにより配信されることがあります。また、DVD 等に編集され、配付されることがあります。
（３）この他、北海道高等学校体育連盟の許可に基づき、記念写真等が販売されることがあります。

４　当番校としての対応について

（１）取得した個人情報を上記利用目的以外に使用することはありません。
（２）参加申込書の提出により、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
（３）大会役員、競技役員、運営委員、その他各種委員や補助員、当番校と大会に関する契約をしている者、大会運営関係者の皆様につきましては、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
（４）記念写真等の販売について業者から直接当番校へ問い合わせがあった場合は、一括道高体連事務局で対応しますので業者へご連絡ください。
（５）個人情報等の掲載または公開等に関してのご質問は、北海道高等学校体育連盟事務局までご連絡ください。

連絡先･問い合わせ先
北海道高等学校体育連盟事務局
０１１－８２６－３３００

祝

第 62 回　北海道高等学校登山選手権大会
兼
第 67 回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会

2023 年 6 月 20 日～23 日
旭岳、上ホロカメットク山～十勝岳

北海道の山の店　秀岳荘

http://www.shugakuso.com